



サービス 通信

富士重工業株式会社

本社：東京都新宿区

西新宿1-7-2 (スバルビル)

NO. FAS-005C

発行 44年12月 6日

53年 4月20日C改訂

1. 標 題 : 燃料計の作動点検
2. 適用機体 : 全てのFA-200シリーズの機体で、装備している燃料計発信器のうち
 - 2.1 パーツ・ナンバーQF-32-1/2で、製造番号の末尾にM2 又はM3 の表示のないもの。
 - 2.2 パーツ・ナンバーQF-32-1/2で、製造番号の末尾にM2 又はM3 の表示のあるもの及びパーツ・ナンバーQF-32-1A/2Aのもの。
3. 適用度 : 指 令 事 項
4. 目 的 : 燃料計発信器の不具合による燃料計の指示誤差を防止するため。
(理由)
5. 指 示 : 燃料計の点検を行う。手順は13項の方法に従うこと。
不具合が発見された場合は富士重工(株)サービス課に連絡のこと。
6. 実施時期 : 第2.1項の部品 : 50時間点検毎に行う。
第2.2項の部品 : 1000時間点検毎又は1年毎の早い方。
7. 承 認 : 航空局承認 (No-東-53-001) 53. 4. 4
8. 所要部品 : な し。

FAS-005C

PAGE 1 OF 2

9. 特殊工具 : な し。
10. 重量重心 : 変化なし。
11. 準拠資料 : な し。
12. 所要工数 : 僅 少。
13. 手 順 :

1 3 - 1 準 備

- (1) 燃料注入のキャップを開く。
- (2) マスタースイッチをONにする。

1 3 - 2 点 検

下記のいずれかの方法により確認すること。

(1) 手で作動確認する方法

燃料注入口より手を入れ発信器のフロートを軽く手でさゝえ、上下にゆっくり動かし、キャビン内の検査員が指示器の動きを観察する。

指針のひっかかり、とび等がなければ良い。更にアーム位置をタンク上面、タンク下面に停止し、それぞれ指示が“F”、“E”をさす事を確認する。

(注意)

アームを強く引っばって、曲げてしまう様な事があってはならない。手で軽くさゝえる程度にする事。

(2) 燃料によって作動確認する方法

機体を水平な場所に位置し、燃料をタンクキャップ下面まで注入し、指示が“F”を指す事を確認する。次にタンク下面ドレンバルブより燃料を排出し、キャビン内の検査員が指示器の指針の動きを観察する。指針のひっかかり、とび等がなければ良い。更に、全燃料排出時指示が“E”をさす事を確認する。